

カーブミラーの設置基準について

手島 秀美 議員

(未来フォーラム)

◆市内には見通しの悪い交差点や袋小路が多くあり、T字路にはカーブミラーが設置されている。見通しの悪い場所についてはカーブミラーがあることにより安全確認ができ、事故の未然防止に大きな役割を果たしている。

ある日市民がカーブミラーを設置してほしいと市にお願いしたところ、設置基準に満たないから取り付けができないとのことであった。カーブミラーの設置目的と設置基準は、また今後、設置基準の見直しは考えているのか。

◆**市民部長** 事故を未然に防止するため、見通しの悪い交差点などに設置するもので、利用戸数10戸以上で、自動車保有台数10台以上などの基準がある。また、設置要望の方に対して、設置場所の交渉や費用の負担などを踏まえて、見直しを検討したい。

◆期日前投票所の増設について

市議会議員選挙の投票率を見ると、残念ながら毎回下がってきている状況にある。しかし一方で、期日前投票では期日前投票制度が導入された平成16年の参議院選挙と平成19年の参議院選挙の比較では1.6倍に増えた。期日前投

票所の増設については、投票行動を低下させないためにも設置箇所も含め、検討していくとのことであったが、これまでどのように検討されてきたのか。また今後、狭山市駅西口に公益施設ができるが、公益施設内に期日前投票所の設置は考えているのか。

◆選挙管理委員長

地理的な面と有権者数の両面から考えることになるが、施設が2週間程度使用可能で、国政選挙の場合、複数の投票を行うため、駐車場が確保できるなどの条件が必要。来年の参議院議員選挙までには努力したい。

また、西口の公益施設内への期日前投票所の設置は、現在、市役所に設置しているため、地理的に至近の位置になり、地域のバランスなどの関係で、現状では無理と考えている。



カーブミラーで事故の未然防止

一 質 問

(仮称)子育て応援基金の創設を

三浦 和也 議員

(未来フォーラム)

◆救命講習について

職員と市民の普通救命講習修了の状況については、市としては、どのくらいの市民の方に普通救命講習を受講・修了してもらいたいと考えているのか、その目標数値の設定については、また、目標達成のためにどのような取り組みが必要であると考えているのか。

◆消防長

4月現在、職員の普通救命講習の受講率は80.1%、市民の受講率は約10%となっている。成人の20%が訓練を受けていれば患者の死亡率を大幅に減少できるとされていることから、中学生以上の人口の20%、2万8千人を目標に各種団体の協力を得ながら年間120回程度開催し、目標達成に努めていく。

◆街区公園、健康増進のための広場

街区公園は市内に164カ所あるが、その利用状況は、街区公園の多くは「児童公園」と名づけられているが、少子化や高齢化が進むなか、児童公園の今後の課題は、また、運動を楽しめる身近な広場整備の必要性について、市の認識は。

◆建設部長

公園は、地域の催しや住民

の憩いの場、子ども遊び場などに利用されている。児童公園もオーブンな施設として位置づけるほか、名称変更を検討する必要があると考えている。現在ある公園を運動を楽しむ公園としても利用促進を図ることが課題である。

◆地球温暖化対策と緑の保全

県では昨年、毎年の自動車税収入額の1.5%の財源で、車から排出する二酸化炭素を吸収するみどりを保全・創出するために「彩の国みどりの基金」が創設されている。市でも、軽自動車税の一部を地球温暖化対策と緑の保全のために、現在設置されている「みどりの基金」の一部に充て、基金財源を強化してはどうか。

◆市長

みどりの基金は目的を持った基金であり、効果のある方法が求められていると考えるが、厳しい経済状況を考え今後の研究課題とする。

◆(仮称)子育て応援基金創設を

市内外の個人・企業・団体などに寄付を募り、基金を通じて市民全体で子ども達の成長を支え合う「(仮称)子育て応援基金」を新たに創設してはどうか。

◆市長

社会福祉事業基金があり、福祉全般の基金として運用し、その時々的重要請にこたえた事業に活用している。



中心市街地の

活性化について

伊藤 彰 議員

(未来フォーラム)

都市基盤整備計画のソフト事業が成果を示し始めていますが、まちづくりの基本は、補助金の仕組みではなく住民・市民の「やる気」＝自主性だと思います。成果をふまえて市民のやる気を削ぐ事なく、活性化の進展を望みたいと思います。

◆中心市街地活性化の基本構想とまちづくり交付金の活性化事業との整合性について

①中心市街地をりそな銀行交差点で寸断する都市基盤整備計画上のエリア決めは、当初から批判の声があります。このエリアの決定の経緯について、2つのエリアの整合性をどう考えるか。
②中心市街地の本来の姿、人間川は一つと考えるがいかがか。

市長 ①平成13年に狭山市駅周辺地区の基本計画を策定し、18年度の法律改正で改訂版を策定する方針とした。②霞野線から石無坂の起点まで一帯なのは誰もが認識することである。

市民部長 ①都市再生整備計画のエリアは、平成13年策定の基本計画に沿ってエリア設定したものである。②都市基盤の整備とサービス機能の充実に、

より多くの集客が見込まれるのが本来の姿である。

◆中心市街地活性化ソフト事業についてこれまでの成果と今後の拡大について

①都市基盤整備計画の活性化事業のこれまでの成果を踏まえて、この事業の区域外へ地域への活性化の進展についてどう考えますか。

②中心市街地のキャラクター「おりびい」が完成しました。西武文理高校のご協力で大変評判も良く、イベントでは人気を博していましたが、今後の積極活用についてはどのように考えるか。

③まち開き事業に向けての考え方道のり。

市民部長 ①市全体の課題であり、5年をめぐりに事業計画期間内で積極的に事業を展開し、持続性を持って進めていく。②地域のイメージアップにつながる活用を検討していく。

まちづくり推進部長 ③イベントは市民参加の思い出に残る行事にしたい。9月末ごろまでに概要まとめ、来年1月ごろまでに全容を決定していく。



中心市街地のキャラクター・おりびい

一般質問

子どもの貧困対策・

子育て支援

大沢 えみ子 議員

(日本共産党)

◆就学援助制度の拡充について

深刻な経済不況の中、「子どもの貧困」が大きな課題となっています。

①就学援助制度の基準を引き上げる考えは。

②中学入学時には制服など6万円以上かかる。就学援助制度の新人学用品費を増額する考えは。

③部活動の道具や遠征時の交通費などを支給する考えは。

教育長 ①経済

の悪化で必要性は認識している

が、現在の基準を継続していく。②現在の基準を継続していく。

生涯学習部長 ③部活動の遠征費は20

年度から対象を拡大し、保護者の負担軽減を図っている。

◆弁当の日について

今年度から小中学校で年3回「弁当の日」が導入されました。

①1回目の実施状況は。

②昨今の経済状況を考えたとき、かえって負担にならないか。



どの子どもも安心して学べる環境を

学校教育部長 ①小学生2名、中学生8

名が忘れたが、保護者、職員が対応した。

教育長 ②児童生徒や保護者、学校の意見を聴き現状を把握し、家庭の状況に応じて取り組めるよう配慮していく。

◆保育所持機児童の解消について

保育所持機児童が年々増えています。①今後どのように待機児童解消を進める考えか。

②分園の取り組みの評価と今後、他の園に広げていく考えは。

③公立幼稚園での預かり保育ができないか。

市長 ①将来の保育需要を見守りつつ職員の適正配置に努め、民間保育所との連携で施設整備などに取り組んでいく。

福祉部長 ②低年齢児の受け入れ枠の拡大と保育という点で成果があるが、発達過程に応じて0～5歳児の一貫した保育環境が望ましいと考えている。

教育長 ③現在は予定していない。

◆児童館の拡充について

新狭山地区をはじめ、児童館のない地域から、子ども達の居場所を作りたいとの要望が寄せられています。

①今後の整備予定は。

②新狭山地区では旧リサイクルセンターを活用できないか。

市長 ①引き続き児童館4館で児童の健全育成や子育て支援の推進を図る。

福祉部長 ②センターを児童館として利用するには、バリアフリー法などによる大規模改修が必要で、活用は困難である。